

平成30年度 北海道札幌北陵高等学校 学校評価（自己評価）集計

教職員用

【学校教育目標】

- 1 ひとりひとりを大切にし、その可能性を最大限に伸ばす教育
- 2 あらゆる機会をとらえ、調和のとれた人間形成をめざす教育
- 3 たえず向上しようとする旺盛な意欲のもと、充実した気力と強い体力を養う教育

(お名前)

集 計

【年度の重点目標】

学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）をバランスよく身に付けさせるための教育活動を積極的に展開する。

【経営方針】

- (1) 学習・指導方法を不断に改善し、授業で勝負する教員集団を形成する。
- (2) 特別活動を充実させ、主体性や多様な他者と協働する態度を育成する。
- (3) 自他の生命と人権を尊重し、いじめを絶対に許さない環境作りを推進する。
- (4) 分掌、学年相互の連携を密にし、組織力を生かした学校経営を推進する。
- (5) 様々な危機管理事案に迅速・的確・丁寧に対応できる学校体制を確立する。
- (6) 北海道アクション・プランに基づき、部活動指導にかかわる負担の軽減を図る。

【A:達成している B:おおむね達成 C:やや不十分である D:不十分である】

【重点事項と評価の観点】

領域	重点事項	評価の観点	【達成状況の評価】			
			A	B	C	D
Ⅰ 学習指導	1 学力の3要素を踏まえた「授業力向上」の取組を全教員で協同して行う。	☐ 学習指導や評価の在り方について、組織的に研修を推進し、実践することができた。	18	37	9	0
	2 家庭学習を充実させるとともに、質の高い授業づくりを推進し、主体的に学びに向かう姿勢を引き出す。	☐ 必要な家庭学習時間を確保させるとともに、授業の中で主体的な学びの場面を設定できた。	14	37	13	0
	3 教科の指導計画に基づき、PDCAサイクルを機能させ、適切に授業をマネジメントする。	☐ 身に付けさせる力を明確にし、適切な評価を行い、学習改善につなげることができた。	9	42	13	0
Ⅱ 生徒指導	1 生徒に寄り添い、向き合うことを通して、自主的・自律的な生活態度を育む。	☐ カウンセリングマインドをもって生徒に接し、自主的・自律的な行動を促すことができた。	6	55	3	0
	2 すべての生徒が人権を尊重し、「いじめはしない、させない、許さない」という意識と態度を育む。	☐ いじめ防止対策委員会において、定期的に情報を共有し、初期段階のいじめを認知し、組織的に解決に導くことができた。	25	37	2	0
	3 情報を正しく安全に利用できるよう情報モラルの必要性や責任を理解させ、情報社会に参画できる態度を育む。	☐ 授業やHR活動、講演会、啓発資料を通して、実効性のある情報モラルにかかわる指導が遂行できた。	8	47	9	0
Ⅲ 進路指導	1 高大接続改革の理念を全教員で共有し、新しい大学入試制度に対応する。	☐ 新調査書など必要な対応を計画的に進めることができた。	17	29	14	2
	2 卒業後の進路先で主体的に活躍しようとする態度を育む。	☐ 希望する進路先のポリシー等について十分研究させ、理解を深めることができた。	7	40	15	1
	3 定量データと個別面談に基づく緻密で適切な進路指導を実践し、生徒の進路希望を実現する。	☐ 各種試験（考査、模試等）のデータをマネジメントし、教員全体にフィードバックできた。	17	42	4	0
Ⅳ 健康・安全指導	1 自他の生命を尊重し、自らの心身の健康意識を高め、管理できる力を育成する。	☐ 生徒情報交換会や生徒理解支援ツールを活用し、生徒の心身の健康状況を把握できた。	21	38	5	0
	2 生徒の教育上の問題について、組織として対応し、機動的に解決する。	☐ 生徒の欠席状況や学校での様子について、SC等と連携し、教員間で情報を共有できた。	25	36	3	0
	3 交通事故や犯罪等に対する危機管理能力を育成する。	☐ 交通安全・防犯等に関する取組を通して、日常の様々な危険について生徒自らが判断し、身を守ることができた。	12	41	11	0
Ⅴ 学校運営	1 分掌、学年、教職員相互のコミュニケーションを積極的に行い、組織力を生かした学校運営を行うことができた。		9	39	14	2
	2 様々な危機管理事案に教職員間、関係機関等と連携して迅速・的確・丁寧に対応することができた。		16	39	9	0
	3 北海道アクション・プランに基づき、年間73日以上部の活動休養日を設けることができた。		17	31	11	1